



私は見た。すると見よ、青ざめた馬がいた。これに乗っている者の名は「死」で、よみがそれに従っていた。彼らに、地上の四分の一を支配して、剣と飢饉と死病と地の獣によって殺す権威が与えられた。

今までに白い馬、赤い馬、黒い馬が出て来ました。

今日は青ざめた馬。そして、これに乗っている者の名は「死」。非常に不吉な名前です。

この馬に乗る「死」と呼ばれる者には3つの特徴があります。

#### 特徴1) お供を連れている

今までの白い馬、赤い馬、黒い馬は単独でしたが、青ざめた馬に乗る「死」と呼ばれる者の後ろには従者がいるんです。まず、青ざめた馬に乗っている者が一撃を放つ。そして、後ろの従者がトドメを刺す。

この従者の名前がよみ(黄泉)。ギリシア語ではハデス。

ハデスは、罪人が死んだ後にその魂が最後の審判を受けるまで入っている魂の留置場です。

つまり、死とよみ/ハデスが一对となって、世界中で暴れまわりますね。

ある方が言っています。

「死は生きている人を連れ去ってしまう。ハデスは死んだ人の魂を連れ去ってしまうのだ。」

死んだ人の魂を留め置く場所がハデス。ここではよみと翻訳されていますがハデス。

ハデスに連れて行かれるのは、神に反逆した状態で死んだ人の魂だけです。

死が連れ去った神に反逆した状態の人たちの魂がハデスに連れ去られる、と言っているのですね。

#### 特徴2) 「死」と呼ばれる悪霊は、4つの災いで人間を打ちのめす

彼らに、地上の四分の一を支配して、剣と飢饉と死病と地の獣によって殺す権威が与えられた。

剣と飢饉と死病と地の獣。この4つです。

剣は戦争。飢饉は戦争の結果生じる食糧難。死病は、戦争による栄養失調と不衛生の結果生じる病気。

地の獣は、人間の数があまりにも急激に減るために野生化した動物。暴走して人間を襲う。

ここの地の獣は反キリストのことではありません。文字通り、地の獣・動物・生き物のことです。

確かに黙示録の後半には、獣と呼ばれる人物と国が出て来ます。

反キリスト、そして彼が治める国を獣と呼ぶのですが、その場合はいつも単数形です。

ここで獣と訳されている言葉は複数形。だから、厳密に翻訳すると地の獣たちのほうが良いのです。

獣と訳されている言葉はギリシア語でセイリオン。セイリオンは動物も含めた全生命体、全ての生物を指す言葉です。動物だけでなく、伝染病の原因となる細菌・ウイルスもその中に入れてよいのです。

もちろん、今の生物学の定義では、ウイルスは生物とは言わないですね。

“生物とは自分で増殖できる能力を持つもの”と生物学では定義しているので、ウイルスは生物ではなく微生物だと言っていますが、聖書は生物学の本じゃないんです。

ここで言っているのは、人間の命を脅かす全ての生命・生物を指しているのです。ウイルスを入れてもよいと私は考えます。いずれにしても、戦争・食糧難・伝染病・地の獣によって人々が殺されるのです。

#### 特徴3) 4つの災いによって被るスケールの大きさ

地上の四分の一を支配して、剣と飢饉と死病と地の獣によって殺す権威が与えられた。

地上の1/4が支配されて殺される。世界人口の1/4が、わずかの期間で死に絶えてしまう。

2022年中に、世界人口は80億になると見込まれています。80億の1/4は20億人ですね。

20億人が、僅か1年かそれくらいで姿を消してしまう。消滅してしまう。

そんなことは非現実的ではないか。いいえ。人類歴史を見ると、そのようなことが今まで何度も何度も起こっています。

14世紀、ヨーロッパ地域でペストが大流行しました。ペストの大流行は3回ありますが、その1つが14世紀の大流行です。当時のヨーロッパの人口は7500万人でした。しかし、3年半続いたペストが終わった時点で5000万人になったんです。2500万人、ヨーロッパ人口の1/3がたった3年半で消滅です。

実は2500万人全員が、ペストが原因の死ではありません。大半はペストです。しかし、ペストで急激に人口が減ったために、畑や家畜の世話をする人、家族の世話をする人がいなくなって、広範囲で社会が壊滅状態になったんですね。社会そのものが崩壊したために、人口が加速的に減少してしまっただけです。この中世のパンデミックが終わった後も、ヨーロッパの人口は中々増加しませんでした。人口増加が軌道に乗るのは16世紀に入ってからです。

歴史は繰り返します。世界的規模で起こるパンデミックはまた起こる、と聖書は預言しているのです。艱難時代は7年間続きます。今語っているのは、その前半3年半の前半(1.5年くらい)のことで、そこで既に人口が1/4も消失してしまうという、恐るべき預言がここに出て来るのです。

しかし、艱難時代の裁きの中にも神の恵みがあるのです。墮天使の攻撃が許されるのは世界人口の1/4まで。3/4はこの段階では助かる。守られる。。この3/4の人たちの人生観は、どのような転換を迎えるでしょう。僅かの間に世界人口の1/4が消えた。恐らく、身内の中にも命を落とす人がいるのではないのでしょうか。そのような急激な壊滅的ダメージを目の当たりにした時、今までの人生観で良かったのか…。人生と向き合い、今の生々しい現実に向き合い、そして艱難時代という時代に向き合い、何よりも創造主である神と向き合う機会が与えられるのです。

神と向き合う機会は、残った3/4の人々にとって良きものをもたらすようです。これについては、次回第5の封印解除で解説したいと考えています。なので、よろしければ続きをご覧ください。もしよろしければ、チャンネル登録もお願いします。ではまたこのチャンネルでお目にかかりましょう。それまで皆さん、お元気でいてください。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。